

野菜・花きの営農情報


《5月中旬～6月中旬の技術対策》



令和元年5月21日発行
第1号
空知農業改良普及センター本所
Tel : 0126-23-2900
Fax : 0126-22-2838

【全作物共通】



- ①適正な土壌水分での耕起作業が重要です。また、暗きよ等との接続が前提になりますが耕起前のパラソイラ、サブソイラを用いた処理は排水性向上に有効です。
- ②外気温や日照の変化に応じたハウスの開閉が必要です。曇天後のわずかな日照でもハウス内温度は、急上昇しやすいので注意が必要です。
- ③ほ場準備が遅れた場合は、苗の馴化や適切な管理により老化苗にならないようにしましょう。
- ④除草剤は使用基準を遵守して下さい。また、隣接畑へ飛散しないよう風向きに注意して散布しましょう。
- ⑤病害虫の発生が懸念される場合、発生予察情報に留意し初期防除に努めましょう。
- ⑥ハウス栽培では気象変動や生育ステージに応じた温度管理、水管理を徹底しましょう。

【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策															
メロン	<p>＜温度管理の目安＞</p> <ul style="list-style-type: none">・最高気温 30℃以下、地温 18℃以上を目標に管理しましょう。 <table border="1"><thead><tr><th>生育期節</th><th>最低気温</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>活着後</td><td>12℃程度</td><td></td></tr><tr><td>開花7日前～着果期</td><td>15℃程度</td><td>やや高めの温度管理で雌花を充実させます。</td></tr><tr><td>果実肥大期</td><td>15～18℃</td><td>最低気温をやや高め初期肥大を促します。</td></tr><tr><td>ネット形成期</td><td>15℃程度</td><td></td></tr></tbody></table> <p>＜かん水管理＞</p> <ul style="list-style-type: none">・乾燥気味のほ場が見受けられます。本葉 10枚頃に草勢が弱い場合は、マルチ下の土壌水分を確認しながら少量多かん水を実施しましょう。・開花7日前までに、軽かん水し雌花の充実を図ります。・5月下旬に縦ネット期（果実肥大期）に入る作型では、かん水を控えなければならないので、事前にやや多めのかん水を行いベッド内の水むらを解消しておきましょう。	生育期節	最低気温	備考	活着後	12℃程度		開花7日前～着果期	15℃程度	やや高めの温度管理で雌花を充実させます。	果実肥大期	15～18℃	最低気温をやや高め初期肥大を促します。	ネット形成期	15℃程度		<p>降雨が少なく、乾燥気味に推移しているため、ハダニ（写真ハダニの被害葉）の発生が予想されます。こまめなほ場観察が重要となります。</p> <p>（交配時期の防除は、ミツバチに影響を及ぼすので注意しましょう。）</p> 
	生育期節	最低気温	備考														
活着後	12℃程度																
開花7日前～着果期	15℃程度	やや高めの温度管理で雌花を充実させます。															
果実肥大期	15～18℃	最低気温をやや高め初期肥大を促します。															
ネット形成期	15℃程度																
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none">・昼夜の温度差が大きい時期です。日中の気温 25℃、最低気温 12℃以上を目標に、ハウス換気等こまめな温度管理を行いましょう。・かん水はマルチ下の土壌水分を確認し、生育状況に応じて少量多かん水とします。・ホルモン処理は日中を避け、涼しい時間帯に行ってください。（高温時は、奇形果の発生原因になります。）・わき芽の摘心等は晴天時の午前中に行い、傷口	<p>低温・多湿条件が続くと灰色かび病（写真）が発生するおそれがあります。こまめな換気を行うとともに、発生前に予防剤による防除を行うことも効果的です。</p>															

	<p>が午後には乾くようにしましょう。</p>	
<p>きゅうり</p>	<p><温度管理の目安></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中 25℃、最低気温 15℃以上を目標に管理しましょう。 ・昼夜の温度差が大きい時期です。ハウス内の湿度が急激に下がったり、温度が急激に上昇した場合、生長点が損傷する恐れがあります。急激な換気は避け徐々に換気を行いましょう。 <p><かん水管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分と生育状況に応じて行いましょう。 ・葉色が薄い場合は、葉面散布を行いましょう。 	<p>ハウス内が過湿状態の場合は、べと病（写真左：べと病初発）などが発生しやすく、乾燥状態の場合は、ハダニ（写真右：ハダニ被害葉）が発生しやすくなりますので、発生状況に留意しましょう。</p> 
<p>かぼちゃ</p>	<p><ポット育苗></p> <ul style="list-style-type: none"> ・育苗前半は、夜温を 15℃以上確保するように保温します。定植の7日前から外気に馴らします。 ・育苗後半は徒長を防ぐため、鉢ずらしをします。 ・親つるの摘心は、定植の3～4日前に本葉3～4枚を残して行います。 <p><セル育苗></p> <p>老化苗にならないよう、ほ場の定植準備を進めましょう。</p> <p><定植に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植 1 週間前にはマルチ張りなど本畑の準備をし、地温 15℃を確保してください。 ・かん水は定植前日にポットに十分行き、定植直後には地温が下がるため当日にかん水を行わないようにします。 ・植え傷みを防ぐため、定植は暖かい時間帯に行いましょう。 	
<p>いちご</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・春どり(一季成り)いちごは、肥大期～収穫期に入っています。高温管理にならないように注意しましょう。 ・日中の温度管理は、20℃前後を目標にしましょう。 ・夏秋どり(四季成り)いちごの株養成時期の株は、ランナーと果房の除去を行い丈夫な株を作りましょう。 ・いちごは、乾燥・過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花びらの落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。薬剤防除のほか、こまめな換気などの耕種的防除も行いましょう。 ・ハダニ、シクラメンホコリダニの発生に注意し、発生初期防除に努めましょう。

【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 定植作業は平年よりも早めに進みましたが、その後の天候により、葉先が傷んでいるほ場があります。 除草剤は生育状況を確認しながら散布しましょう。 	<p>5月中下旬にネギハモグリバエ（成虫）の食痕を確認したら防除しましょう。</p> 
露地ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 1回目の培土時期は定植後30～40日頃を目安とし、植溝の土戻し程度としましょう。 追肥を行う場合は、1回あたりにチッ素成分量を10a当たり2～3kg施用しましょう。 	
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> 収穫開始の早いハウスでは収穫期間が30日を経過しています。ハウス栽培では、春芽収穫開始約30日後から立茎を行います。立茎の開始は、収穫量、萌芽数の減少、扁平・曲がり・細い若茎が増えてきた頃等を目安にします。 立茎候補枝を選ぶときは、茎径10～12mmを目安に1株あたり4～5本又は1m当たり12～15本を目安としましょう。立茎開始後も立茎枝以外は収穫します。 施設内は乾燥傾向です。かん水量の不足に注意しましょう。 	<p>露地栽培では、地温の上昇により害虫が発生します。害虫の被害を確認したら防除しましょう。</p>

【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
カーネーション (スプレータ イプ)	<p>〈温度管理の目安〉</p> <p>《活着後の目標温度：昼温 15～25℃、夜温 10～15℃》</p> <ul style="list-style-type: none"> ハウス内の温度変化が激しい時期です。温度を確認しながら、こまめに換気を行いましょ <p>《6月の目標温度：30℃を超えないように》</p> <ul style="list-style-type: none"> 晴天日の日中は、ハウス内が高温となります。急激な高温が予想される場合は、寒冷紗により遮光を行いましょ。 <p>〈かん水管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月に入ると生育が旺盛となり、葉先枯れ（チップバーン）が発生しやすい時期です。水分不足に注意し、予防としてカルシウム資材の葉面散布を行いましょ。 <p>〈今後の管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 活着後、苗が伸長を始めたら5～7節でピンチ（摘心）を行います。芽吹きの良い否で摘心位置を調節します。 仕立て本数は4～5本とし、生育の揃った芽を、四方に広がるよう残します。 分枝が伸びてきたら、遅れずにネットの高さを調整しましょ。 	<ul style="list-style-type: none"> 摘心、整枝作業は、切り口が乾きやすい晴れた日の午前中に行いましょ。雨天日や低温日の摘心・整枝作業は、ハウス内の湿度が高いため、切り口が乾燥しにくく、病害発生リスクが高まります。 6月に入ると、温度の上昇とともにハダニ・アザミウマ類などの害虫の増加が懸念されます。葉裏の観察や青色粘着板等による予察を行い、発生初期の防除に努めましょ。
スターチス (シヌアータ)	<p>〈温度管理の目安〉</p> <p>《活着後の目標温度：10～15℃》</p> <ul style="list-style-type: none"> ハウス内の温度変化が激しい時期です。晴天時の日中は高温とならないよう注意し、雨天や曇天日は湿度の上昇に注意し換気しましょ。 <p>《6月の目標温度：30℃を超えないように》</p> <ul style="list-style-type: none"> 30℃以上の高温が続くと生育が停滞します。ハウスを開放するとともに循環扇や寒冷紗(晴天日のみ)を設置しましょ。 <p>〈今後の管理〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 摘心は、活着後、抽台茎が20 cm位になったら1回目を実施し、株の直径が40～50 cmになるまで、抽台茎を2回程度摘心します。 株が十分充実したら（定植後約45日で葉数45枚が目安）、目標出荷時期から逆算して抽台茎を立て始めます（最終摘心から採花までの目安：早生品種30～35日、晩生品種40日前後）。 	<ul style="list-style-type: none"> 灰色かび病の株への侵入防止のため、摘心は地際では行わず、茎を4～5cm残しましょ。  <ul style="list-style-type: none"> 摘心作業は、切り口が乾きやすい晴れた日の午前中に行いましょ。雨天日や低温日の摘心作業は、ハウス内の湿度が高いため、切り口が乾燥しにくく、病害発生リスクが高まります。 6月に入ると、温度の上昇とともにハダニ・アザミウマ類などの害虫の増加が懸念されます。発生初期の防除に努めましょ。

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょ★